



歳時記のある暮らし

二〇二二年 《二月》

寒さに震えながら梅の花が香りを放つところとなりました。

皆様、おすこやかにお過ごしでしょうか。

いつも『神秘の健康力』をご愛用いただき、誠にありがとうございます。

二月は如月(きさらぎ)ともいいます。中国で二月を意味する如月(にげこは、長い冬が終わり春に向かって万物が動き始める時期といわれます。しかし実際は、極寒の真った中で、朝は起きるのも、外出するのもおっくうになりがちです。ところがこの時期、早朝や屋外に目を向けると冬にしか見られない自然現象に出会うことがあります。ガラス窓の表面にできる窓霜は、窓を美しい花や羽毛の模様の氷結晶で飾ります。樹木を覆う樹氷、地面から「ヨキヨキ」と生える氷筍というつらら、風で雪がめくれて、クリームがたっぷり塗られたロールケーキのような雪まくりも風情です。春が来る前に、雪と氷の芸術に触れておきたいものです。

日本人にとって雪は身近な存在で、平安時代にはすでに雪合戦が行われていたそうです。かまくらは日本由来の文化ですし、雪だるまも懐かしい思い出です。ロシアや北欧、緯度の高いアメリカやカナダにも豪雪地帯はありますが、日本の東北や北海道のように、たくさんの方が生活している豪雪地帯はあまりありません。日本には豪雪地帯対策特別措置法という大雪への対策を支援する法律がありますが、それによって「豪雪地帯」と指定されている地域の面積は国土の約五％、つまり日本の半分は豪雪地帯で、世界でもトップクラスの雪国なのです。

三寒四温をくり返し春へと向かいますが、暦の上では立春の前日の節分をもって冬と春を分けます。節分には豆まき行事があります。昔から、冬の終盤に体調を崩す人が多かったのでしょう。病気や悪いことはすべて鬼の仕業と考えられていました。豆まきの豆、大豆にはたくさんの栄養が含まれているため、鬼を追い出す。パワーが詰まっているとされ、悪い鬼を豆で追い払い、健康を願って数え年の数だけ豆を食べます。また、鰯の臭いと柀の棘が大の苦手な鬼を家の中に入れないように、柀鰯(へいらぎいわし)を玄関先に取り付けます。そして、立春から始まる新しい一年に、招福万来を期待して、その年の恵方を向いて恵方巻を丸かじりします。

(裏表へ続きます)

節分は、閏年の去年は二月三日でしたが今年は二月二日です。節分が二日になるのは一八九七年、明治三〇年二月二日以来二四年ぶりのことです。四年に一度の閏年に、二月が二九日あるのは、二年が二六五日ちょうどではなく、約二六五・二四二日あることが原因です。地球は太陽の周りを二六五日かけてまわるといわれますが、実は約二六五・二四二日、すなわち、二六五日プラス六時間弱となるのです。この六時間は四年で約一日となり、四年おきに一日増やす、つまり閏年を作ることで元の状態に戻すのです。

立春を過ぎると、枯れ木にしか見えない木の枝にも新芽が出ていることに気づきます。日ごと膨らみゆく新芽から、凍てつく地表の下で春への支度が進んでいることがわかります。川や湖の氷も解け始め、雪解けの土の中から露の莖が顔をのぞかせます。

日生とたんぽぽ

金子みすゞ

青いお空のそこぶかく、海の小石のそのように、夜がくるまでしずんでる、

昼のお星はめにみえぬ。見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。

ちつてすがれたたんぽぽの、かわらのすきに、だアまって、春のくるまでかくれてる。

つよいその根はめにみえぬ。見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。

昏間の星や冬のタンポポの根……。見えなくても大切なものがあることに気付かせてくれる詩です。

梅が香やどなたが来ても欠け茶碗

小林一茶

一茶は、「やせ蛙 負けるな一茶 これにあり」でも有名ですが、梅が咲き、陽気に誘われて訪れる人に、貧しくて欠け茶碗しかないけど、身分にかかわらず欠け茶碗でもてなそうとする一茶の心の豊かさに元気づけられます。

余寒厳しき折ですが、早春の寒さは春を予感させ、待つ喜びを抱かせてくれます。

梅の便りを楽しみに、寒い季節を元気に乗り越えましょう。

皆様のご健康をお祈り申しあげます。

金氏高麗人参株式会社

おもてなし係お手紙担当 久郷直子

